九州大学病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは、九州大学病院を責任基幹施設とし、主に福岡市内・福岡市近郊に位置する九州大学病院麻酔科蘇生科の関連病院群で構成されている。

本プログラムの特徴は、豊富で多様な麻酔症例を経験することで麻酔専門医としてのゆるぎない実力を確実に醸成することである。次に、日々進歩している医療現場にあって最新の外科医療に即応できるハイレベルな麻酔専門医を育成することである。そして何より、患者への共感と仲間との協調性と社会人としての寛容性をもった人間性豊かな麻酔専門医を涵養することにある。本プログラムは、一般的な外科手術患者の麻酔管理、種々の合併症を有する患者、小児麻酔や心臓血管外科手術麻酔など高度で専門的な分野、更に、集中治療や救急医療、ペインクリニック、緩和ケアなど麻酔に関連する各分野での幅広い研修を提供する。本プログラム修了後には各専攻医が十分な麻酔科領域および麻酔科関連領域の専門知識と技量、刻々と変わる臨床現場における適切な臨床的判断能力と問題解決能力を備え、安全で質の高い周術期医療を提供でき、国民の健康と福祉の増進に寄与することができる麻酔科専門医に育つことができるようにする。

実施施設は、責任基幹施設である九州大学病院を中心とし、関連研修施設である国立病院機構九州医療センター、福岡市立こども病院、聖マリア病院、済生会福岡総合病院、浜の町病院、九州中央病院、福岡市民病院、国立病院機構小倉医療センター、九州大学別府病院、宗像水光会病院、千早病院、済生会唐津病院、飯塚病院、和白病院、佐賀県医療センター好生館から構成される。

責任基幹施設である九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。同時に集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど関連分野での研修もプログラムに含まれており、幅広い研修を行うことができる。

基幹研修施設や関連研修施設もそれぞれに特徴を持っている。例えば、福岡市立こども病院では小児麻酔、とくに先天性心疾患児の麻酔管理の集中的な研修を行うことができる。また、聖マリア病院は小児心臓手術、済生会福岡総合病院は多発外傷などの緊急手術、九州医療センターは成人心臓手術が多いといった特徴を持っている。施設群全体で総数約 46,000 件の症例数があり、各専攻医に十分な研修の機会を提供することができる。

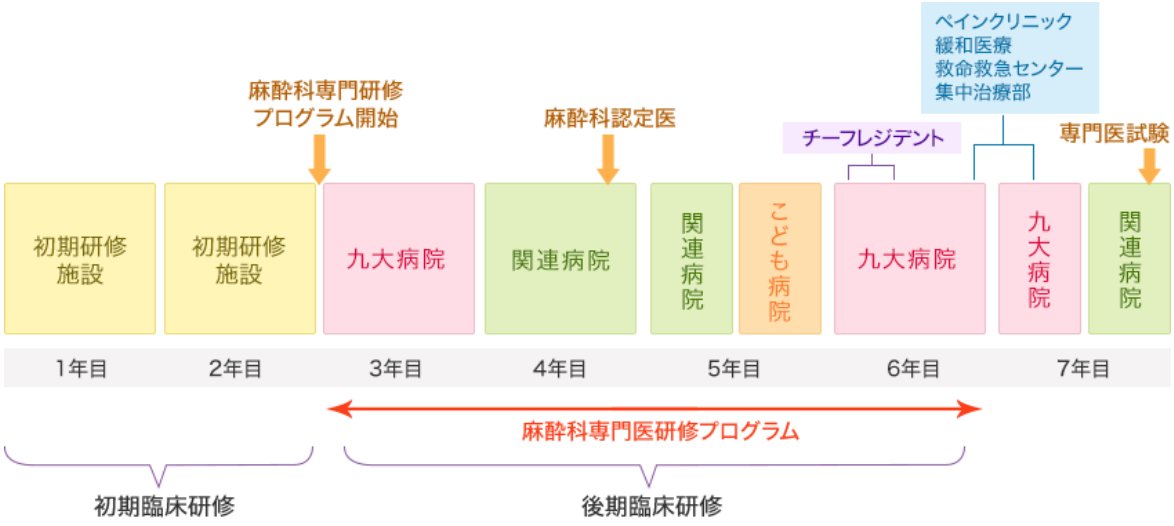
麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料「**麻酔科専攻医研修マニュアル**」に記されている。本プログラムでは、日本麻酔科学会の研修プログラム整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成するだけでなく、痛みの制御や急性期の呼吸・循環・神経の制御、そして蘇生法に関して理解を深め、治療や管理法に関する幅広い視野を持つことを目的としている。そのために、本プログラム修了後には大学院進学や海外留学などの機会も積極的に提供する。

3. 専門研修プログラムの運営方針

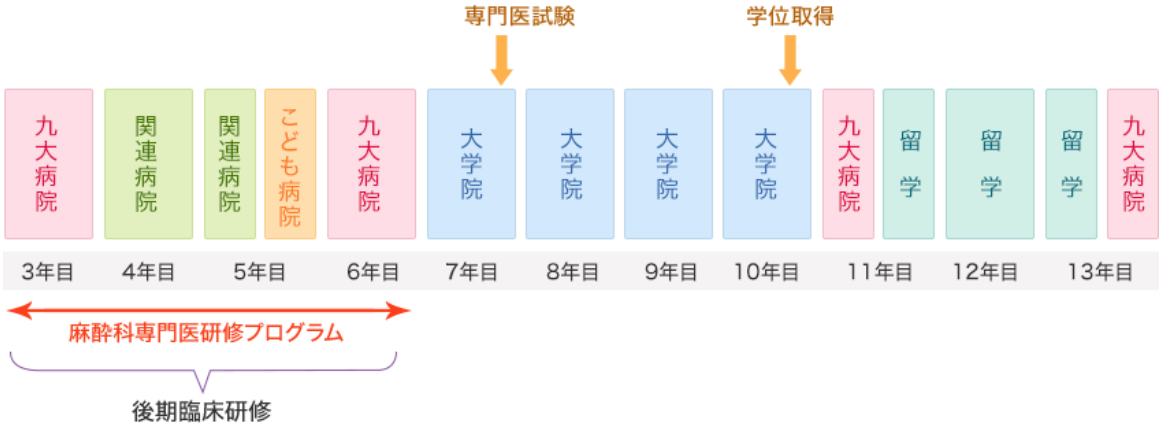
- 原則として研修の前半 2 年間のうち 1 年間、後半 2 年間のうち 1 年間は，責任基幹施設で研修を行う。
- 研修内容・進行状況に配慮し，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要充分な特殊麻酔症例数を経験できるよう、ローテーションを構築する.
- 責任基幹施設である九州大学病院での研修では、心臓血管外科手術・移植等特殊な麻酔の研修に加え、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での研修も行う。
- 小児麻酔、特に先天性心疾患児の麻酔管理の研修のため、主に九州大学病院、福岡市立こども病院、聖マリア病院で研修を行う。
- 研修後半にはチーフレジデントとして、手術室運営の経験も積む。
- 女性医師の妊娠・出産・育児などの際には、それぞれの希望に柔軟に対応しつつ

到達目標を達成できるよう研修をサポートする。

研修実施計画例



大学院進学・留学を見据えた研修例



4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における前年度合計麻酔科管理症例数：46,434症例

本研修プログラム全体における総指導医数：54人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	1,059症例
帝王切開術の麻酔	625症例

心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	746症例
胸部外科手術の麻酔	687 症例
脳神経外科手術の麻酔	772症例

① 専門研修基幹施設

九州大学病院

研修プログラム統括責任者：辛島 裕士

専門研修指導医：瀬戸口　秀一（麻酔、集中治療）
神田橋 忠（麻酔）
秋吉 浩三郎（麻酔、集中治療）
徳田 賢太郎（麻酔、集中治療、救急）
牧　盾　　（麻酔、集中治療、救急）
塩川　浩輝（麻酔、ペインクリニック）
藤吉　哲弘（麻酔、集中治療、救急）
前田　愛子（麻酔、ペインクリニック）
宮崎　良平（麻酔）
白水　和宏（麻酔、集中治療、救急）
早水　憲吾（麻酔）
住江　誠　（麻酔）

専門医：　崎村　正太郎（麻酔）
島内　司　（麻酔）
福徳　花菜（麻酔、緩和ケア）
梅原　薫　（麻酔）
仁田原　見知子（麻酔）
倉富　忍　（麻酔）
新道　香菜子（麻酔）

認定病院番号：８

特徴：九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。

麻酔科管理症例数 7,966 症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	500症例
帝王切開術の麻酔	250症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	300 症例
胸部外科手術の麻酔	250 症例
脳神経外科手術の麻酔	200症例

② **専門研修連携施設A**

国立病院機構　九州医療センター（以下，九州医療センター）

研修実施責任者：甲斐　哲也

専門研修指導医：中垣　俊明（麻酔）

塩川　加奈子（麻酔）

吉野　裕子（麻酔）

牧園　玲子（麻酔）

東　晶子　（麻酔）

専門医：　杉部　清佳（麻酔）

認定病院番号: ６９７

特徴：外科系の全診療科を有し、麻酔科専門医に求められる全ての領域の麻酔を経験することができる。全身麻酔は全静脈麻酔を主体とし、速やかで質の高い覚醒と術後嘔気の少ない良質な麻酔を目指しており、全静脈麻酔を多数経験することができる。術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており、対象症例も多いため、神経ブロックも多く経験することができる。術後ivPCAを施行する患者も多く、そのコントロールへの関与も可能である。

麻酔科管理症例数 4,265症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	40症例
帝王切開術の麻酔	80症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	100 症例
胸部外科手術の麻酔	100 症例

脳神経外科手術の麻酔	150症例

地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市立こども病院
（以下，福岡市立こども病院）
研修実施責任者：水野　圭一郎
専門研修指導医：泉　薫（麻酔、ペインクリニック）
住吉　理絵子（麻酔）
自見　宣郎（麻酔、ペインクリニック）
専門医：　石川　真理子（麻酔）

認定病院番号: ２０５

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸管理の実践的な研修が可能。外科・整形外科・泌尿器科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛管理にも力を入れており、硬膜外鎮痛やPCAなどを行っている。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

麻酔科管理症例数 1,870症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	225症例
帝王切開術の麻酔	40症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	100 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

地方独立行政法人　佐賀県医療センター好生館（以下、好生館）
研修実施責任者：島川　勇介
専門研修指導医：小杉　寿文（緩和、ペインクリニック）
三溝　慎次（集中治療）
諸隈　明子（麻酔）
冨田　由紀子（麻酔）

久保　麻悠子（緩和）
古賀　美佳（集中治療）
専門医：　田代　直規（麻酔）
久我　公美子（麻酔）

認定病院番号: ３９３

特徴：当館は佐賀県におけるがん、災害、外傷、産科など多岐にわたる医療の拠点病院である。安全・安心の医療を、県内各地から来館する重篤な合併症を有する患者にも提供する必要がある。四肢・体幹部の神経ブロックは県内一の症例数となっている。
病院規模、手術室数からの予測を超える症例数をこなしており、スピードも求められる側面を持つ。専門医を目指す若き医師たちに集中できる環境であると自負する。

麻酔科管理症例数 4,575症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	26症例
帝王切開術の麻酔	7症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	5 症例
胸部外科手術の麻酔	33 症例
脳神経外科手術の麻酔	12症例

株式会社麻生　飯塚病院（以下，飯塚病院）
研修実施責任者：尾崎　実展
専門研修指導医：小畑　勝義（麻酔、ペインクリニック）
田平　暢恵（麻酔）
小西　彩　（麻酔）
内藤　智孝（麻酔）

認定病院番号: ５３９

特徴：当院では麻酔科を含め専門医研修プログラムはACGME（Accreditation Council for Graduate Medical Education)が提唱する6 competenciesに準拠している。また、当院が提携しているいくつかのアメリカの大学病院との交流に参加でき、参加のため

の語学サポートも充実している。我々も積極意的に海外の国際学会に参加を進めている。
当院は九州大学麻酔科・蘇生科の関連施設であると同時に独自にプログラムを有する責任基幹施設として，麻酔科専門医を育成している。

麻酔科管理症例数 4,463症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	30症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	50 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

公立学校共済組合　九州中央病院　（以下，九州中央病院）
研修実施責任者：松角　貴子
専門研修指導医：本山　嘉正（麻酔、ペインクリニック）
漢那　悦子（麻酔）
村上　雅子（麻酔、周術期管理）

認定病院番号：５０

特徴：当院では全身麻酔だけではなく硬膜外麻酔・脊椎麻酔・末梢神経ブロックの症例も多く経験できる。特にエコーガイド下神経ブロックは積極的に取り入れており、術後疼痛管理にも用いている。また、ペインクリニックの研修の機会もある。

麻酔科管理症例数 1,870症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	225症例
帝王切開術の麻酔	40症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	100 症例

胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

社会医療法人財団池友会　福岡和白病院　（以下，和白病院）
研修実施責任者：冨永　昌宗
専門研修指導医：佐藤　浩三（麻酔）
佐藤　ゆみ子（麻酔）

認定病院番号：１０４５

特徴：当院は、地域支援病院の指定を受け地域医療に貢献しさらに、高度急性期医療を目指している病院で、病床数は急性期病床３４１床、回復期リハビリテーション病棟２６床の計３６７床である。定例手術はもとより、心臓血管外科、一般外科、脳神経外科、さらには外科系各科にまたがる重症外傷などの緊急手術が多いのが特徴である。６歳未満の小児の症例は少ないものの、手術対象年齢は小児から高齢者まで、幅広い年齢層の手術が行われている。

麻酔科管理症例数 2,297症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	11症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	109 症例
胸部外科手術の麻酔	68 症例
脳神経外科手術の麻酔	161症例

国家公務員共済組合連合会　千早病院　（以下，千早病院）
研修実施責任者：小林　祐紀子
専門研修指導医：藤田　愛　（麻酔）

認定病院番号：９０２

特徴：当院では 2017 年度、消化器外科と整形外科 594 例の麻酔管理を行いました。緊急手術を除くほぼ全例、前日までに予約制で麻酔科外来にて術前診察・

説明を行い、必要ならば担当主治医とも連絡を取り、麻酔法を決定します。時間外手術への対応が難しい現状もあって、術中管理にもスピードと正確さが求められます。術後回診によって問題点を把握し、さらに安全な麻酔管理を目指すとともに、主治医・病棟看護師へ提言することもあります。

麻酔科管理症例数 594症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：山浦　健

専門研修指導医：山浦　健　　（麻酔）
東　みどり子　（麻酔）
重松　研二　　（麻酔、集中治療）
柴田　志保　　（ペインクリニック）
岩下　耕平　　（麻酔、集中治療）
原賀　勇壮　　（麻酔、緩和ケア）
中森　絵里砂　（麻酔）
佐藤　聖子　　（麻酔）
冨永　健二　　（麻酔）
大脇　涼子　　（麻酔）
三股　亮介　　（麻酔）
外山　恵美子　（麻酔、ペインクリニック）
千々岩　絵里子（麻酔）
熊野　仁美　　（麻酔）
富永　将三　　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：92

特徴：年間手術症例数は 8,300 例余り、そのうち約 7,000 症例を麻酔科が管理しています。脳死および生体肺移植術があること、心大血管手術や外傷手術が多いため、緊急手術の割合が高いのが特徴です。症例数が豊富であり、麻酔科

専門研修プログラムに必要な症例はすべて経験することができます。麻酔管理では、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを積極的に行っており、術後の疼痛管理にも積極的に取り組んでいます。また、周術期管理センターを開設しており、周術期管理チームとして看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、全身状態の評価を入院前から行っています。外科系集中治療室は麻酔科医が主体となって運営されており、術後の全身管理を学ぶことが可能です。また、ペインクリニックでの急性痛･慢性痛に対する薬物療法や神経ブロック、緩和ケアの研修も行なっています。その他、神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的に開催しており、様々な資格・認定を取得することも可能です。

麻酔科管理症例数 7.067症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	357症例
帝王切開術の麻酔	218症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	146 症例
胸部外科手術の麻酔	237 症例
脳神経外科手術の麻酔	205症例

医療法人社団高邦会　福岡山王病院　（以下，福岡山王病院）

研修実施責任者：　野元　保孝

専門研修指導医：　八島　典子（麻酔科）
宮脇　順子（麻酔科）
稲井　聡子（麻酔科）
谷村　典弥（麻酔科）
梅村　理恵（麻酔科）

専門医　：　坂本　聖子（麻酔科）
小野　千晶（麻酔科）
岩松　有希子（麻酔科）

認定病院番号：　1465

特徴：当院は、福岡市早良区百道浜に位置し、199 床の病床をもち、全室個室で、ハートリズムセンター、バースセンター、リプロダクションセンター、関節外科センターなど先進的な医療と、質の高い医療、特徴ある医療を国内、国外の患者さんに提供している。麻酔は、婦人科手術を中心に、脳外科手術、整形外科手術、それ

に帝王切開術を多く経験できる。また、特徴的なところでは無痛分娩を多く手掛けており、産科医療に麻酔科医が積極的に参加している。

麻酔科管理症例数　2,602 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満の麻酔）	29 症例
帝王切開術の麻酔	156 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	19 症例
脳神経外科手術の麻酔	52 症例

③　**専門研修連携施設B**

雪の聖母会　聖マリア病院（以下、聖マリア病院）
研修実施責任者：吉野　淳
専門研修指導医：藤村　直幸（麻酔、集中治療、救急、ペインクリニック）
甘蔗　真純（麻酔）
専門医：　平本　有美（麻酔）
八田　万里子（麻酔）
信國　桂子（麻酔）

認定病院番号：４８３

特徴：全病床数1295床、年間救急患者6万人、救急車搬送台数9000台と筑後地区の3次救急医療体制を支えている。基本理念は「カトリックの愛の精神による保健、医療、福祉、および教育の実践」。「24時間365日すべての患者さんを断わらない」をモットーに救急医療を展開、現在では一次から三次まで、産科･新生児･小児救急から脳神経･心臓疾患、交通外傷まであらゆる分野の救急を引き受けることのできる病院である。診療科は多岐にわたり、新生児から高齢者まで、様々な症例の麻酔経験が可能である。また、手術症例の約20%（1100例）が緊急手術であり、緊急手術の麻酔経験も積むことが可能である。

麻酔科管理症例数 5,161症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	50症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	20 症例
胸部外科手術の麻酔	30 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院（以下，済生会福岡病院）
研修実施責任者：吉村　速
専門研修指導医：加治　淳子（麻酔）
専門医：　　牛尾　春香（麻酔）
　　梅原　真澄（麻酔）
　　田口　祥子（麻酔）

認定病院番号：１０４３

特徴：福岡市の都心部に位置し、第三次救急救命センターを有するDPC特定病院群の急性期総合病院である。病院の性質上、緊急症例が多く全手術件数の20％以上が緊急手術で、365日24時間、心臓外科・外科・脳外科・多発外傷等の緊急手術に対応している。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、合併症を有する難易度の高い手術が数多く施行され、当院の基本方針の一つである「高度専門医療の推進」が実践されている。

麻酔科管理症例数 3,596症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	20症例
帝王切開術の麻酔	20症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	80 症例
胸部外科手術の麻酔	80 症例
脳神経外科手術の麻酔	100症例

国家公務員共済組合連合会　浜の町病院（以下　浜の町病院）
研修実施責任者：永田　太郎
専門研修指導医：虫本新恵（麻酔）
藤本鮎美（麻酔）
専門医：　松岡友香（麻酔）
住江麻衣子（麻酔）
田邊光和子（麻酔）

認定病院番号：２５８

特徴：2013年より新病院に移転し、整った環境で診療を行っている。婦人科良性疾患の腹腔鏡手術をはじめとした、内視鏡を用いた低侵襲手術の比率が高く、若く合併症が少ない患者が多い。そのような患者に極力周術期合併症を起こさないように安全を第一とした麻酔を心がけている。その一方、高齢で重篤な合併症を伴い、リスクが高く高度な麻酔管理を要求される症例も経験できる。

麻酔科管理症例数 3,509症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	25症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	14 症例
脳神経外科手術の麻酔	18症例

国立病院機構　小倉医療センター（以下，小倉医療センター）
研修実施責任者：趙　成三

認定病院番号：６０５

特徴：地域周産期母子医療センターに指定されており、帝王切開術は300例前後行われています。小児外科は4名体制で、新生児を含む小児症例も増加しています。また、精神科病棟が50床あり、精神神経疾患を有する患者の手術も多く、レミフェンタニルを用いたECTの麻酔管理も行っている。術後鎮痛に力を入れており、小児症例においても硬膜外麻酔や超音波ガイド下神経ブロックを積極的に取り入れています。

麻酔科管理症例数 2,274症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	100症例
帝王切開術の麻酔	100症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

地方独立行政法人福岡市立病院機構　福岡市民病院　（以下，福岡市民病院）

研修実施責任者：河邉　聡

専門医：　　中山　昌子（麻酔）

認定病院番号：５７９

特徴：当院は福岡市の中心部に位置し、主に消化器外科・血管外科・脳外科・整形外科の手術を多く取り扱う病院です。全身状態に問題のある症例も多く、手術の際には呼吸器系や循環器系、中枢神経系など多角的な視点で病態をとらえ、安全で良質な全身麻酔管理を行うために必要な知識と技術について、あるいは硬膜外麻酔や神経ブロックを使用した疼痛コントロールにより患者の苦痛を取り除く手法についての研修をすることができます。

麻酔科管理症例数 1,024症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

医療法人社団水光会宗像水光会総合病院　（以下，宗像水光会病院）

研修実施責任者：川崎　俊宏

認定病院番号: ９１０

特徴：麻酔科管理症例1,369症例中、約半数が脊髄くも膜下麻酔やCSEAであり、高齢者に対する手術が多い。心臓血管外科手術は59例のみであるが、末梢血管外科手術症例数も多く、リスクの高い患者に対する麻酔管理を学ぶことができる。脳神経外科は血管内手術が多くなっており、手術室外での麻酔も経験できる。全身麻酔は吸入麻酔を中心に使用しているが、脊髄くも膜下麻酔でのモルヒネや、術後疼痛管理のレペタンなど、様々な麻酔管理を経験することできる。

麻酔科管理症例数 1,369症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	4症例
帝王切開術の麻酔	3症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	12 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	6症例

社会福祉法人恩賜財団済生会　済生会唐津病院

研修実施責任者：田中　宏幸

認定病院番号: １５０７

特徴：当院は唐津市周辺地域の急性期医療を担っている病院である。内科、循環器内科、外科、整形外科、脳外科などの診療科がある。193床の中規模病院である特性を生かし、地域に根ざした医療をチームワークよく行っている。麻酔科は主に、消化管外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、血管外科の手術の麻酔を行っている。手術を受ける患者は高齢者が多いため、さまざまな病気を合併している患者も多い。麻酔法は全身麻酔単独または全身麻酔と硬膜外麻酔を組み合わせた方法を行っている。

麻酔科管理症例数 476症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例

心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	47 症例
脳神経外科手術の麻酔	30症例

九州大学病院　別府病院

研修実施責任者：池田　水子

認定病院番号: １６４３

特徴：大分県別府市にある約 100 床の病院。手術は、腹部外科、乳腺外科、脊椎外科の症例が多い。高齢患者が多く、緻密な麻酔計画、麻酔管理を学ぶことができる。症例数が多くないため、術前、術中、術後管理について、すべての手術患者に関わることができ、主治医・担当医と綿密にディスカッションをすることができる。特に術後鎮痛については力を入れており、主治医と協力して計画と実施を行っている。ペインクリニックを見学したり、診療に関わることも可能である。

麻酔科管理症例数 419症例

	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0症例

医療法人社団高邦会　高木病院　（以下，高木病院）

研修実施責任者：　井関　俊

専門研修指導医：　外　須美夫（麻酔）

専門医：　柴山　愛子（麻酔）

認定病院番号：　1632

特徴：当院は、福岡県南西部の大川市に位置し、地域医療を支える中核医療機関としてプライマリケアから高度先進医療、救急医療、在宅医療に取り組んでいる。循環器センター、呼吸器センター、がんセンター、不妊センターなどを有し、高次医療に力をいれている。当院では、心臓血管外科、胸部外科、脳神経外科、産婦人科、一般外科などオールラウンドな麻酔が経験可能である。基幹型臨床研修病院であり、初期研修医の教育・指導に加わるだけでなく、医学部学生（国際医療福祉大学）の臨床実習にも教育的立場で参加する機会がある。

麻酔科管理症例数　1,080 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満の麻酔）	1 症例
帝王切開術の麻酔	23 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	39 症例
胸部外科手術の麻酔	57 症例
脳神経外科手術の麻酔	29 症例

5. <u>募集定員</u>

１５名

（＊募集定員は，4年間の経験必要症例数が賄える人数とする．複数のプログラムに入っている施設は，各々のプログラムに症例数を重複計上しない）

6. <u>専攻医の採用と問い合わせ先</u>

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2018 年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，九州大学病院麻酔科専門研修プログラム website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

九州大学病院　麻酔科蘇生科　　医局長　白水　和宏
福岡県福岡市東区馬出　3-1-1
TEL 092-642-5714

E-mail masuika@ kuaccm.med.kyushu-u.ac.jp
Website https://www.kuaccm.med.kyushu-u.ac.jp/resident/program.html

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA３度の患者の周術期管理やASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィード

バックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある． 研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う６ヶ月以内の休止は１回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して２年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して２年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して４年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- ２年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められ

ない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，国立病院機構九州医療センター、済生会福岡総合病院、飯塚病院、九州中央病院、福岡市立こども病院、福岡市民病院、福岡和白病院、聖マリア病院、国立病院機構小倉医療センター、浜の町病院、佐賀県立病院佐賀医療センター、が地域医療支援病院として含まれている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

各研修施設には十分な指導医と指導体制が整っているが，指導体制が十分でないと感じられた場合，専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接，文書，電子媒体などの手段によって報告することが可能である。研修プログラム統括責任者および管理委員会は，研修施設およびコースの変更，研修連携病院からの専門研修指導医の補充，専門研修指導医研修等を検討する．

15. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します.

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します.